

｝ 令和3年度 ｝

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

はじめに

劇場サポーターの皆さま、はじめまして。本年4月1日、前任の山中隆館長からその任を引き継ぎました。公演内容、劇場環境とも国内外から高く評価され、コロナ禍においても芸術文化の灯を消さない姿勢を称賛されてきたびわ湖ホール。この現場に携われることは望外の喜びであり、微力を尽くし専心努力してまいりますので、前館長同様のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

さて、本記録集にお寄せいただいたサポーターの皆さまの熱心な活動記録を拝読しておりますと、新型コロナウイルスや国際情勢など、芸術文化のあり方にも影響を及ぼす不安要素が予断を許さない中にありましても、芸術文化を愛し、その隆盛を願う心が絶えることは決してないのだということを実感することができます。

令和4年度（2022年度）、びわ湖ホールは平成10年（1998年）の開館から25年目を迎え、沼尻竜典芸術監督の任期最終年度ともなります。皆さまの熱い思いにこたえられますよう、これまでの実績を踏まえ、我が国の舞台芸術の水準の向上に貢献し「トップレベルの劇場を目指す」という視点と、誰もが気軽に訪れることができる「親しみやすい劇場を目指す」という双方の視点に立ち、バランス良く事業を展開してまいりたいと考えております。

その際にかげがえのないものが劇場サポーターの皆さまのお力添えです。ヨーロッパに「牛乳を配達する人は、これを飲む人より健康である」ということわざがあるそうです。滋味あふれる舞台芸術という牛乳を存分に味わっていただくことはもとより、舞台芸術やびわ湖ホールの魅力をお知り合いの方など多くの方にお配りいただきたいと思います。飲む喜びに加え、配る喜び、配ることを通して色んな力を身に付ける喜びもまた格別かと存じます。

これからも、県民はじめ多くの方に愛され、広く県内外から繰り返しご来場いただき、誰もが舞台芸術の楽しみを味わっていただく、そのようなホールを目指してまいりますので引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

令和4年4月

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
館長 村田和彦



目 次

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告	1
2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要	37
2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要	39
2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱	40
2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳	41
2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」活動の様子	42

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告

期別（順不同）

文責：びわ湖ホール劇場サポーター

サポーター活動3年目を振り返って

第24期 青砥 ノリ子

収束の見えないコロナ禍ですが、びわ湖ホールのスタッフの方々に感染症予防を徹底していただいているお陰で、数々の公演や文化講座等に参加できますことをいつもありがたく思っております。

3年目の活動といたしましては、昨年度に引き続き、初心者向けトライアングル講座、特別講座、オペラ講座「パルジファル」、ワーグナーゼミナール(上級編)を受講させていただきました。ワーグナーの一部(第3回の作品の全体像とその思想的背景)は、私にとっては難解で、少々落ち込みましたが、いずれも充実したプログラムで、毎回楽しく学ばせていただいております。

演奏会は、オペラ「カルメン」、歌劇「竹取物語」や名曲コンサートなど、7～8回は鑑賞の機会がありました。「竹取物語」は、ゲネプロの見学からすることができ、ゲネプロでは幸田さん、本番は砂川さんのかぐや姫を拝聴いたしました。「竹取物語」と「竹澤恭子、宮田大、田村響 ピアノ三重奏」は、親子孫の3世代で楽しませていただき、小学一年生の孫は、この1年間でシアターメイツのスタンプが5つ貯まって、記念のネームホルダーをいただき、益々張り切っております。

このように自分自身の学びや楽しみにつながるものばかりで、積極的な提案活動やボランティア活動には貢献できず、申し訳なく思っております。

毎月送付いただくチラシはクリアギフトバッグにセットをして、5名の方にかかさずお渡しして喜んでいただいておりますが、もう少し積極的にネットワークづくりに参加できれば、と人との交流が制限されるコロナ禍で歯痒い思いをしております。

先日、「心に深く響くバス 松森治」の演奏会終了後に、「ようやくびわ湖ホールに来ることができました」と、86歳の女性に話しかけられました。その方は、毎日新聞の記事で演奏会のことを知り、切り抜きを持って一人で、野洲からタクシー、JR、タクシーを乗り継いで、初めてご来場になったとのことでした。このような方にこそ、情報をお届けして、一人でも多くの方が四季折々に美しい琵琶湖のほとりで素晴らしい音楽を堪能できれば、と願っております。びわ湖ホールのファンづくりを微力ながらこれからも続けてまいりたいと思います。

4 年目の正直目指して

24 期 石橋 茂斗子

コロナ禍で仕事が多忙を極め、すっかり在籍のみのサポーターと化しておりました。大変申し訳ございません。

まったく動けなかった中、初めて家族とともにびわ湖ホールに行くことができたことが今年度唯一のご報告になります。

何もできなかったことが心苦しく、来年度は辞退させていただこうかと考えておりましたが、このたびご縁があって滋賀県民になったこともあり、気持ちを新たに活動させていただければと思っております。
何卒よろしくお願い申し上げます。



劇場サポーター応募のきっかけになった、初めてボランティアに参加した近江の春びわ湖クラシック音楽祭 2018 で撮った写真です。演奏終了後ホワイエから見えた鮮やかな新緑に心を奪われました。

新しい年へ

第 24 期 井谷 町子

「古楽の楽しみ」FM ラジオよりーバッハ、ハイドン、ヘンデル等々お気に入りの音楽で目覚め、私の 1 日が始まります。心に元気のビタミンを。そして、今背中を押してくれているのも大好きな音楽です。

びわ湖ホール劇場サポーター3年目の活動を振り返ってみました。

ホールでの音楽会にたくさんの方々が参加してもらえよう、毎月、友人や知人に広報をお配りしています。

ホール企画研修会や講座、サポーター例会にはほとんど出席することができました。中でも、昨年に引き続き、「ワーグナー・ゼミナール」の初級・上級編に参加し、今年はオペラ「パルジファル」について学べたことは大きな喜びでした。ワグナーの純粹さ、強さに深く触れ、作品の奥深さを再認識しました。ワグナー作品から目が離せない昨今です。

びわ湖ホール音楽会にも出かけました。小曾根真氏の「CLASSIC×JAZZ」は特に印象に残っています。初めて聴く劇場での JAZZ ピアノの響きに体が震え、心が踊りました。幅広い年齢層のファンの方々と共に演奏を存分楽しみました。

今年も音楽の輪を広げられるよう、皆様と共に広報活動を行なってまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



びわ湖ホール声楽アンサンブルコレペティ研修成果発表見学会が 2021 年 11 月 26 日 小ホールであり、客席 300 人余りのところにサポータ 40 人程が参加しました。

コレペティートルという職業をご存じでしょうか。私も実は知らなかったのです。

日本では略して「コレペティ」と呼ばれます。イタリア語では「マエストロ・コラボラトール」と言います。直訳すると「協力者の師匠」といったところでしょうか。

協力者？それでいて師匠？なんだか不可解ですが、オペラ公演には欠かせない存在です。歌手がオペラの舞台に立つときに、音楽面で裏から支える仕事。稽古で伴奏のピアニストをするだけでなく、台本や楽譜の解釈を伝え、照明や舞台袖でキューを出すこともある。まさに縁の下の力持ちなのです。

「つばめ」練習の佳境の頃の研修だったということですが、好きな曲を歌って良いということでアンサンブルの皆さんそれぞれ個性を発揮され素敵な演奏を聴かせていただきました。コレペティートル岡本佐紀子さんの楽しい司会進行ですすめられ、歌う方もなぜこの歌を選んだのか話をされ楽しい興味ある時間でした。

12 月 19 日びわ湖ホール研修室でサポーターズ・サロンがあり声楽アンサンブルのメンバーとの語り合いの機会もありました。

皆さん素晴らしい声と表現力をもっていらっしゃるので、そのような声はどうやって出せるのかと聴きたいところでしたが、そんな野暮な質問はやめて声楽の道を選んだ背景を話していただいた。教会で歌ったのがきっかけだったり、高校の頃に合唱を少しやったのがきっかけだったという方もあり、高校の頃にロックバンドをやっていたとか管楽器をやっていた方が多くいらしたのには興味深かった。自分の本当の声は自分自身が聴くことはできないので周りの方たちがそれを見出してくれた、導きだしてくれたという感謝の気持ちを持って今も日々精進されているようなお話をされた。

声楽の道は一生勉強ですとのお話には怠けがちなわが身には刺激となりました。

ステージからは想像できない声楽アンサンブルの皆さんの個性と人間味に近親間を感じ、声楽アンサンブルの皆さんがますます身近な存在となりましたので、お一人お一人を今まで以上に応援していきます。

反省の 1 年（劇場サポーター 2021 年度 活動報告）

24 期 川端 正晴

1.活動内容

(1)PR 活動

私が参加しているオペラ愛好サークルがコロナの関係で活動休止していることもあり、びわ湖ホール広報物配布などの PR 活動はほとんどできませんでしたが、サークル会員の方にネットでびわ湖ホール「パルジファル」公演と関連イベントの PR、および劇場サポーターへの勧誘などをさせていただきました。

(2)サポーター通信「ハルモニア」

引き続き、ハルモニア 47 号(2021 秋号)の編集作業をお手伝いさせていただきました。今後は諸事情によりあまり対応できないかも知れませんが、可能な範囲で少しでもお役に立てればと思います。新しく加入いただいた編集メンバーの方に期待しています。

なお、拙稿でお恥ずかしいですが、毎号ハルモニアに何か投稿するように心がけています。



(3)交流会活動への参加

実施されたイベントにはできる限り参加させていただきました(欠席も多かったですが)。

また第 6 回定例会では「パルジファル」の解説を担当させていただきました。コロナ禍にもかかわらず発表の機会を設けていただいたことに感謝いたします。開催が危ぶまれながらも開催にご尽力いただいた関係者の方々、ありがとうございました。

2.感想

劇場サポーター活動への参加は、趣味を同じくする人たちとの出会いと交流が最大の楽しみです。コンサートやイベントなどでびわ湖ホールへ出かけた時に、存じ上げているサポーターの方を見かけてご挨拶ができるとほっとします。劇場サポーターになる以前はコンサートに行ってもいつも独りぼっちでしたが、劇場サポーター活動を通して顔見知りの方が増えたことによる充実感を覚えます。ありがとうございました。

今後のびわ湖ホールのコンサートやイベントや劇場サポーター活動が例年どおり実施され、一日も早くコロナ前の状態に戻ることを強く願っています。

3.反省点と今後の抱負

セミナーへの無料参加など、劇場サポーターとしての多くの特典を享受する一方で、今年度も PR 活動が不十分だったと反省していますが、当初目標の「3 年間サポーター活動を続ける」が無事終了できてほっとしています。これまでのご指導ありがとうございました。次年度はあまり活動に参加できないかも知れませんが、健康なうちは劇場サポーターを続けさせていただく予定です。今後ともよろしくお願いいたします。

以上

いまだ新型コロナウイルスの収束が見えないなか、この一年もたくさんの公演や研修に参加させていただくことができ、大なる刺激を受けるとともに、大変充実した有意義な時間を過ごさせていただきました。ひとえにびわ湖ホールの方のご尽力の賜物と改めて感謝申し上げます。

昨年同様、コロナ禍にあって積極的に公演に足を運んでいただくようお願いするのは憚られましたが、びわ湖ホールでは徹底した感染対策が取られていることを説明のうえ、公演スケジュールやパンフレットを手渡しできる方にはお配りし、遠方の方にはインターネットを通じてびわ湖ホールのホームページの案内と公演情報をお知らせしてまいりました。

昨年の「近江の春」の開催に際し、ポスターをいただけたことから、初めての試みとして、開催までのしばしの間、自宅の門扉に貼らせていただきました。目に留めていただいた方も少なからずおられたようで、何人かの方からお声がけいただけるとい嬉しいことも。今回はポスターとともにパンフレットもあわせて掲示して、関心のある方には何らかの形でお渡しできればと目下思案中です。

「近江の春」が終わってしばらくの間、各公演のダイジェスト版がアーカイブ配信されていたので、遠方や会場に足を運べなかった知り合いにお知らせしたところ、滅多に聴けないも演目も多くとても喜んでもらえました。次はぜひ会場で生の演奏を楽しんでもらいたいと期待しています。

『泣いた赤鬼』の公演をお子さんのおられるご家族に案内したところ、公演を観に来ていただけたうえに、シアターメイツにもご入会いただきました。若いうちから優れた舞台芸術に生で触れる機会がたくさんあるのは何とも羨ましく、この制度はもっともっと広めていくべきじゃないかと今更ながら思いました。この若い人達こそまさに“劇場サポーター”なのかもしれません。

振り返れば、ほぼ毎週のようにびわ湖ホールに通っていました。演奏会のみならず、劇場サポーター研修や講座、定例会、サロン等、劇場サポーターであればこそその恩恵にあずかり、たくさんの感動とともに新しい世界へ導いていただきました。ホールの皆さまはじめ、サポーターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

皆さまとホールでお会いし、感動を共に分かち合えることは、他では味わうことのできない何よりの喜びでした。また元気にお目にかかれる日を楽しみにしています。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

24期 船越 千明

PR 活動

今期もコロナ禍の影響で集う機会も少なく、近くの人と話題を共有するにとどまりました。

講座・セミナーの受講

歌劇『竹取物語』の稽古（KHP）を見学させていただきました。

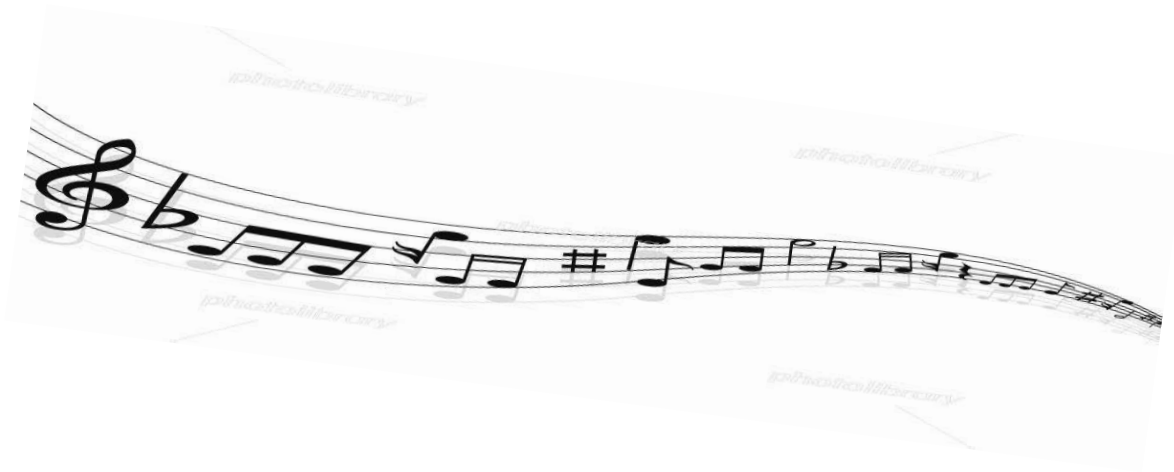
本番も観させていただきましたが、そのオペラが出来ていく過程が体験できて、大変興味深い見学になりました。

感想

昨年度は公演中止であった「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」も今年度は開催され、また、間もなく「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2022」が開催されようとしています。みなさんが集える場所としてのびわ湖ホールが、すぐ傍に戻ってくると感じています。

感謝

コロナ禍の中、公演の実施にあたり、スタッフの皆さんのご苦労は計り知れません。末筆ながら御礼を申し上げます。



びわ湖ホールサポーターの魅力

第 24 期 堀口まりこ

仕事と家事だけの毎日ではなく生活に文化的なものを取り入れたいと、びわ湖ホールサポーターとなり3年が過ぎました。新型コロナウイルス感染の波が幾度も押し寄せ、なかなか以前の生活を取り戻せない中、山中館長の「劇場は安心・安全」という言葉をお伝えしながら、パンフレットをご近所や知り合いにお配りしてPR活動をしています。私自身も、毎月送っていただくパンフレットを楽しみにしており、今年度は「近江の春」、オペラ『カルメン』、「林康子声楽セミナー」、「鈴木優人指揮日本センチュリー交響楽団」、オペラ『竹取物語』など魅力ある公演を楽しみました。とくに心に残っているのは、オペラ『竹取物語』です。月に帰らねばならないかぐや姫の切なさを、涙を流しながら歌い上げた幸田浩子さんの姿に、思わずもらい泣きしてしまいました。

公演に先駆けて行われる研修会にも、時間の許す限り参加しました。専門家の話は私にとって難解ですが、知る喜びを感じながら、一生懸命メモを取ってお勉強しています。これまでオペラは敷居が高くてあまり観たことがありませんでしたが、少しずつ関心を持つようになり、吉田兼好の「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」を実感しています。ホールに出かける日は、「どんな服を着て行こうかな」、「サポーターのお仲間に会えるかな」などと考えてワクワクします。ホールでは山中館長や水上さん、土井さんが笑顔で迎えてくださり、ちょっとした特別感があって嬉しくなります。一方の反省点としては、ハルモニアグループに入れていただいたのに、日曜日に勤務をしている都合上、編集作業も製本作業もほとんど参加できない幽霊部員だということです。せめて得意分野である「飲み会企画」で活躍しようと思うところですが、コロナ禍でその力も発揮できずにいます！

びわ湖ホールとの関わりは私の生活に多くの彩りを与えてくれています。これからもサポーターとしてびわ湖ホールの魅力を伝え、劇場ファンを増やしていきたいです。そして舞台芸術を楽しみ、心豊かな時間を過ごしていきたいです。

2021年度劇場サポーター活動報告

25期 岡田多江子

2021年こそは自分だけでなく家族知人を誘って劇場に足を運びたいと思っていましたが残念ながらコロナ禍は収まらず、また自身の健康問題も有って観劇や定例会に思うように出かけられず周囲にも告知ができず残念でした。

この2年で舞台を取り巻く状況がすっかり変わってしまい、どうしたら効果的な広報ができるのか考えています。と同時に私の周囲には舞台芸術に関心のない人がほとんどで、どういう舞台や催しなら行きたいか聞き取りするのも大切だと思うようになりました。
劇場、観客双方良しを考えられる活動を目指したいです。

早くコロナ禍が収まるのを祈念するばかりです。

【声楽コンサートの魅力を存分に味わっています】

サポーターになって、2年が経過しました。丸々コロナ禍での活動ですが、それでも1年目はあれもこれも休止の中での細々とした活動でしたが、2年目はコロナ対応を取って、できる限り休止としない中での活動でした。この1年はサポーターになったからこそ味わえたこのとの多い1年でした。そして結果として自分の中に起きた変化は、器楽のコンサート以上に声楽のコンサートの魅力を感じるようになったことです。

サポーターになって3年間は基盤づくりと思い、足しげくびわ湖ホールに通い、びわ湖ホールを好きになること、またその特徴である舞台芸術および声楽を好きになることを目標にしていますが着実にその道を歩めていることを実感しております。

広報活動としては、合唱団でのビラ配りとその機関誌のコラムに「音楽への誘い」として、団員が興味のあるような“公演”を紹介しています。嬉しかったことは、小ホールでの河原先生の「日本語うた」公演から“小さな空（武満徹）”を男声四声合唱に編曲して団のレパートリーに加えられたことです。団の皆も喜んでくれて、サポーター活動と団の活性化とが結びつきました。来期は基盤づくりの3年目、仕上げの年、サポーター活動に加わってくれる人を作りたいと思っています。

サポーターになって二年。

新型コロナの影響を受け、制限は有りましたが、びわ湖ホールで貴重な時間心豊かな時間を持つことが出来ました。その内容は、

- 5月 基礎講座
- 6月 トライアングル講座(オペラ)
- 7月 トライアングル講座(バレエ)
日本センチュリー交響楽団定期公演
カルメン(沼尻竜典オペラセレクション)
- 8月 気軽にクラシック
- 9月 ニ塚直紀追悼コンサート
京都市交響楽団マーラーシリーズ(沼尻竜典指揮)
プラハフィルハーモニー管弦楽団
松山バレエ団ロミオとジュリエット
- 10月 オペラへの招待つばめ
- 11月 びわ湖ホール声楽アンサンブルコレベティ発表見学会
- 12月 フジコ・ヘミング昼下がりのコンチェルト
- 1月 トライアングル講座(古典芸能)
オペラへの招待竹取物語(沼尻竜典作曲)

基礎講座ではびわ湖ホール開設当時からの貴重なお話を伺うことが出来ました。トライアングル講座では初めて知る事も多く大変勉強になりました。オペラは敷居が高いイメージが有りましたが、生で鑑賞した時の身体に響く迫力と素晴らしい歌声に魅了されました。この感動を私のような初心者の方々にどのようにお伝えするかが今後の課題です。

広報物は知人の治療院に置いていただけることになりました...びわ湖ホールの魅力を知っていただける方が増えたら良いな～と思っています。

コロナ禍での講座 公演の開催にはどれ程のご苦勞がおありだった事でしょう。びわ湖ホールの皆様方出演の皆様方の御尽力のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

また「ハルモニア」や「連絡網」で情報発信して下さったサポーターの皆様方、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

びわ湖ホールのサポーターになって、琵琶湖の四季おりおりの景色を楽しめて嬉しい限りです。

相変わらずのコロナでなかなか友人たちのお出ましもはかばかしくなく、サポート会員になるのを勧誘できたのは、数少ない成果でしょうか。

8 月 8 日の仲間先生の北方美術についての講義に参加しました。

音楽と美術の両方のドイツや北方のものに大変興味があったので、感銘を受けました。

1 月 15 日の岡田暁生先生と沼尻さんの対談は、お二人の音楽に対する深い思慮が感じられ、また、深い愛も素敵でした。

ハルモニア秋号に、ドイツ、オーストリアの小都市のオペラハウスについての投稿をしました。特に、ボーデン湖畔のブレゲンツ音楽祭との交流が出来ればいいなあと楽しみにしております。

今後の課題としては、びわ湖の春音楽祭にボランティアとして活動出来ればと思います。

2021年度 びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

25 期

活動の内容

・PR 活動

会社の同僚にはびわ湖ホールの美しいロケーションや参加した公演やセミナーの内容を紹介しています。今まで舞台芸術に関心が薄かった同僚には、びわ湖ホールの名前だけでも記憶に残してもらえようと会話をしています。滋賀県在住の同僚とはびわ湖ホールの話題でとても盛り上がります。

親しい友人には、「びわ湖ホール劇場サポーター」となって舞台芸術を通じて楽しく学んでいることを詳しく話す事にしています。オペラ鑑賞前にオペラの知識を学ぶセミナーに興味を持ってくれて、一緒に参加したいという友達も増えてきました。

・「びわ湖ホール劇場サポーター」活動への参加

びわ湖ホールの企画にはスケジュールの都合がつけばできる限り参加しています。

「トライアングル講座」「オペラ講座パルジファル」「ワーグナー・ゼミナール」は前年と同様に奥深い舞台芸術の世界の魅力を教えて頂き関心を深めることができました。

「びわ湖ホール声楽アンサンブル 研修成果発表見学会」は、アンサンブルメンバーのお名前とお顔を覚える事ができ、アイデア満載の曲紹介はオペラや歌曲を楽しく学ぶことができました。アンサンブルメンバーが身近になり一層応援をしたくなる、温かい雰囲気が漂う素晴らしい企画でした。

感想

今年度初めて、ミニハイキンや基礎講座にも参加させて頂きました。サポーターの皆様とお話をさせていただく機会が少し増えたように感じております。

ミニハイキングも楽しい時間でしたので、その後のレクリエーションにも参加させて頂きたかったのですが、参加が叶わず残念でした。

定例会「パルジファル」レクチャーは、基礎講座と同日で参加しやすかったので、初めての定例会参加となりました。丁寧な解説で、もっと早くから参加していたら良かったと今までの不参加を残念に思いました。

来年度は定例会やレクリエーションにも多く参加できればと考えております。

今後の抱負

「びわ湖ホール劇場サポーター」となって知識を広める沢山の機会を頂いています。その恩恵に報いて自身が楽しみながら成長して、皆様と共にびわ湖ホールのファンの輪を広げる活動に少しでも貢献できればと思っております。

劇場サポーター活動記録

～令和 3 年度を振り返って～

令和 4 年 2 月 28 日

25 期 富田広和

昨年度に続きこの 1 年間もまた新型コロナウイルス感染症の 1 年になり、海外アーティストの来日がほぼない状態が続き残念ではありましたが、国内では関係者の熱意・工夫・努力に支えられ公演が再開・継続されたことが大変良かったと感じています。

活動の内容

4 月からハルモニアグループへ入れていただき、編集会議・寄稿・レイアウト編集・校正・製本などに参加し 10 月のハルモニア誌第 47 号の発刊に関わることができました。

また、日々の劇場サポーターの活動としては以下を行いました。

- ・チラシ等の配布物は興味がありそうなジャンルのものを友人・親戚などにお渡しする。その時びわ湖ホール友の会のサポーター会員入会のメリット（稽古見学会や公演の招待券）をさりげなくアピールする。
- ・びわ湖ホールの公演情報や自身が観覧した公演を SNS（フェイスブックなど）で情報拡散・発信する。

感想

・いままでオペラになじみがなかった私ですが、『カルメン』2 回、『つばめ』2 回 + ストリーミング配信を鑑賞し、ダブルキャストのキャストの違いも楽しめました。

・レクリエーショングループが企画してくださいました『この指と〜まれ！ ♪ オペラの DVD をみんなで観よう ♪』では比較的短時間のオペラ 修道女アンジェリカ（8 月）、道化師（2 月）を鑑賞し、よりオペラに親しみを持つようになりました。

今後

コロナ禍により令和 2 年度にはほとんど出来なかったサポーター間の交流の時間が、令和 3 年度は増えることができました。令和 4 年度は更に増えること期待し、私自身も積極的に参加したいと思います。

イベント参加記録

4 月：9 日 第 13 回シネマ・コンサート バーンスタイン x ウィーン・フィル、11 日 サポーターオリエンテーション、18 日 ハルモニア編集会議、定例会第 1 回、25 日 近江の春 東近江公演、29 日 近江の春 米原公演
5 月：1 日 近江の春 ①上野耕平（サクソフォン）②辻 彩奈（ヴァイオリン）③藤原真理（チェロ）④高木綾子（フルート）⑤前橋汀子（ヴァイオリン）、2 日 近江の春 ①福川伸陽（ホルン）②児玉麻里（ピアノ）、16 日 基礎講座第 1 回、22 日 この指と〜まれ！ ①カルメン ②つばめ、29 日 カルメン プレトーク・マチネ
6 月：6 日 サポーターズ・サロン第 1 回、20 日 特別講座第 1 回「長栄座」、27 日 定例会第 2 回
7 月：11 日 トライアングル講座第 2 回、18 日「長栄座」10 周年アーカイブ上映、31 日 カルメン
8 月：1 日 カルメン、8 日 特別講座第 1 回、サロン第 2 回、21 日 この指と〜まれ！ 修道女アンジェリカ、25 日 ヴァイオリン 赤松由夏、28 日 ハルモニアへ自己紹介文寄稿
9 月：18 日 マーラー沼尻 x 京響、20 日 石田組、23 日 プラハ・フィル、25 日 ロミオとジュリエット
10 月：3 日 シタール x タブラ、4 日 つばめ稽古見学会、8 日 つばめ、11 日 つばめ、17 日 ハルモニア製本、18 日 つばめストリーミング、24 日 定例会第 4 回、31 日 山中千尋トリオ
11 月：26 日 声楽アンサンブル研修成果発表会、泣いた赤おに ゲネプロ見学会
12 月：12 日 ハルモニア編集会議、定例会第 5 回、19 日 オペラ講座初級編 第 1 回
1 月：15 日 パルジファル プレトーク・マチネ、ハルモニア編集会議、オペラ講座初級編 第 2 回、16 日 トライアングル講座 第 3 回、18 日 竹取物語稽古見学会、22 日 県立美術館企画展鑑賞会
2 月：5 日 ワーグナー・ゼミナール 上級編 第 1 回、6 日 竹澤・宮田・田村 ピアノ三重奏、12 日 ワーグナー・ゼミナール 上級編 第 2 回、17 日 この指と〜まれ！ 道化師、20 日 ワーグナー・ゼミナール 上級編 第 3 回、26 日 基礎講座 第 2 回、定例会第 5 回
3 月予定：1 日 パルジファル舞台稽古見学会、3 日 パルジファル、27 日 サロン第 4 回、全体会合

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

第25期 中西 美幸

2021 年度 鑑賞作品

「ローエングリン」

「四大テノールフォーエバー」

近江の春クラシック音楽祭

「左手のピアノ」「わたしたちの愛唱歌」

二塚直紀追悼コンサート

プッチーニ歌劇「つばめ」

びわ湖ホール 声楽アンサンブル コルペティ研修成果発表見学会

ファンタジックオペラ「泣いた赤おに」

歌劇「竹取物語」

講座受講等

トライアングル講座 オペラ編

バレエ編

オペラ講座初級編 第2回目

ワーグナーゼミナール 全3回

稽古見学

「つばめ」「泣いた赤おに」「竹取物語」

びわ湖ホールまるっとツアー

びわ湖ナイトクルーズ 「つばめ」鑑賞後

びわ湖ホールを内から外から見学出来て、琵琶湖との一体感とその壮大さ美しさと魅力たっぷりて感動しました。

仕事の都合で定例会グループの会合に参加させて頂くことができず大変申し訳ございません。

ハルモニア秋号の製本作業を手伝わせていただきました。

沢山の手がかかった大変な作業だなあと感じました。

活動二年目では、鑑賞作品が増えびわ湖ホールへ足を運ぶことも多くなった一年でした。自分の感じたこと、感動したことを周りの人に伝えられるようPRしていきたいと思えます。

一年を振り返って

第25期 中西保之

コロナが落ち着くかと思っていましたが、4波、5波、6波と次から次へと変化し、今年度も海外からの出演者が来日できないという昨年同様に翻弄された一年となりました。

その中で、びわ湖ホールは人数制限をかけながらも公演を続けることができたのは、びわ湖ホールの関係者の努力の賜物だと思っています。

さて、私はこの1年間、劇場サポーター活動として、現在勤務している会社でのパンフレット設置を続け、職場の周りの人へのポスターの配布を直接行っています。その中から、「今度はびわ湖ホールへ行ってみるよ」と言ってくれる方もできています。また、劇場サポーター活動に興味を持っていた方が新たに見つかり、次年度の劇場サポーターに応募されたと聞いています。劇場サポーターは、秋のハルモニア発行に携わり、自ら参加した「びわ湖ホールまるっとステージツアー」について投稿を行い、編集の大変さと発行までの経緯を知ることができました。

びわ湖ホール側で主催いただいた内容としては、基礎講座、初心者向けトライアングル講座、声楽アンサンブルの「コレペティ研修成果発表会」、「泣いた赤おに」の稽古、オペラ講座「パルジファル」の初級/上級編、基礎講座（小野音響デザイナー）に参加させていただきました。

稽古風景や声楽アンサンブルのコレペティ研修成果発表会は、劇場サポーターしか経験できない貴重な場でした。稽古のやり方がどうなっているのか、声楽アンサンブルの方の素顔を見ることができるとても有意義なものとなり、感謝しかありません。

コンサートとしては、「近江の春」に始まり、「にづか、いつか、また」、「つばめ」、「泣いた赤おに」、「竹取物語」を鑑賞し、生演奏のすばらしさを毎回感じています。

3月に開催されるパルジファルのワーグナーゼミナール上級編を通してワーグナーの宗教思想感がとても強いということを改めて感じた次第です。ただ、私には上級編はまだ難しいということがあるのも事実です。時代としてナチスが台頭する直前であり、時代背景もわかり3月の公演が楽しみです。

以上

今年度も、たくさんの収穫がありました。

最も大きかったのは、バレエの魅力を知ったことです。これまでバレエは「優雅で繊細な踊り」だと思っていました。目から鱗が落ちたのが、青山先生のトライアングル講座・バレエ編（7月11日）です。この講座でドラマティック・バレエはおもしろそうだと直感し、さっそく9月25日の松山バレエ団「ロメオとジュリエット」を見にいきました。ロメオとジュリエットが初めて目を合わせるシーンの演技と流れる音楽、周りの群衆も巻き込んだ決闘シーンの迫力など、歌もセリフもないバレエでここまで表現できる、まさにドラマティックでした。この講座に行っていなかったら、バレエの魅力は生涯知らずにいたと思います。

コンサートでも収穫がありました。12月19日の古楽器によるヘンデルのメサイアです。古楽器を使って当時の奏法で演奏する、いわゆるピリオド奏法によるメサイアでしたが、テンポ、アクセント、強弱のコントラスト、ビブラートなど、すべてが聴いていて気持ち良く、とりわけ弦楽器の透明感、ピリオド奏法に合わせた声楽アンサンブルの歌声は見事でした。

ささやかながらびわ湖ホールにも貢献できました。次女はミュージカルや宝塚歌劇にはよく行くのですが、オペラは見る機会がありませんでした。青少年チケットを利用して「つばめ」を見せたところ、結果は上々でした。そのあとも青少年チケットを利用して、12月4日の金子三勇士ピアノリサイタル、1月8日の日本センチュリー交響楽団といった違うジャンルにも行くようになりました。仲間がひとり増えました。

残念だったこともあります。「まるっとステージツアー」はぜひ参加したほうがいい、とサポーターのかたから勧められて申し込んだのですが、時すでに遅く、4回とも札止めでした。すごい人気です。次回は、募集開始とともに申し込もうと思っています。

びわ湖ホールのすばらしいコンサートや講座、制度。もっと広く知ってもらえるように、来年度もがんばろうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年度の活動内容を報告します。

1. 舞台芸術やびわ湖ホールが開催する公演の情報をチラシ配布等で友人等に伝える

活動：びわ湖ホールチケット情報「Stage」やチラシ等を 5 部入手し、近くにお住まいの方 2 名に配布、また、残り 3 部はレッスンを受けている音楽教室に配布

2. 舞台芸術に関する知識を深める（舞台芸術に関する講座を受講して、知識や関心を深める）

活動：下記の講座を受講し、知識や関心を深めた。

- ① 2021 年 5 月 16 日（日）10：00～11：30【第 1 回基礎講座】 中ホール
 テーマ：公立館におけるオペラ制作について～コロナ禍の「神々の黄昏」から「ローエングリン」まで～
 内 容：今につながるびわ湖ホールの開館からの歩み
 講 師：村島美也子（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 事業部 プロデューサー）
- ② 2021 年 6 月 6 日（日）14：00～16：30 リハーサル室
 オペラ・古典芸能・バレエ～初心者向け・トライアングル講座 vol.3 第 1 回 オペラ編
 講師：青山登志和（元フジテレビ・プロデューサー）
- ③ 2021 年 6 月 20 日（日）14：00～15：30【第 1 回特別講座】中ホール
 テーマ：米原にある幻の芝居小屋、「長栄座」について
 ～ これまでの「長栄座」の 10 年と、これからの「長栄座伝承会 むすひ」～
 内 容：（１）芝居小屋「長栄座」の 10 年
 （２）「長栄座伝承会 むすひ」について
 講 師：中村 豊（演出家）、文化産業交流会館職員
- ④ 2021 年 11 月 26 日（金）14：00～16：20 小ホール
 「びわ湖ホール声楽アンサンブル 研修成果発表見学会」
 コレペティトゥア：岡本佐紀子
 出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

3. 勉強会や交流会などの自主活動に参加

活動：

- ① 第 1 回定例会 3 階 研修室
 日 時：2021 年 4 月 18 日（日）午後 2 時～4 時
 テーマ：新サポーターさん向け（歓迎）企画「第 25 期・26 期合同自己紹介+Q&A」
- ② 第 1 回「サポーターズ・サロン」 3 階 研修室
 テーマ：「事業部企画担当の古川さんとおしゃべりしよう！」
 日 時：2021 年 6 月 6 日（日）11:00～12:00

4. その他

特に感銘を受けたコレペティトゥアの岡本左紀子さんによる研修について文書を作成し、提出した。
 その内容を下記に掲載します。

「全てが初めての経験でした。

研修成果の発表とのことで歌って、否 演奏して終わりと思っていました（“演奏”と初めて知りました）。そしてコレペティトゥアも初めて知りました。ピアノ伴奏しながら音楽表現のアドバイスをする人。職業とのこと。すごい職業があるものですね。そのコレペティトゥア岡本左紀子さんがびわ湖ホールにおられることも大発見です。約 2 時間、オペラ歌曲の解説があり、それもアンサンブルメンバー自らが、個々の個性あふれる解説があつて、コレペティトゥア岡本左紀子さんの解説および表現の一言もありのピアノ伴奏、そして素晴らしい演奏。解説を聞いた後の演奏、醍醐味を知ることができ、人生最良のひと時でした。このような世界があるのだと実感した次第です。

できれば、今後もこのような見学会を開催していただければ、素人の私もオペラについて大変興味がわきます。

また、コレペティトゥア岡本左紀子さん自身について大変興味がわきました。岡本さんの人生観、職業観、オペラへの思い、コレペティトゥアについて、などなど。ぜひ時間をとっていただいて、岡本さんから直接お聞きしたいです。

最後に、このような企画をしてくださった劇場サポーター係の方々に感謝です。ありがとうございました。」

以上

サポーターの活動について

サポーターの活動としては、チラシ配布をしています。

「竹取物語」と「泣いた赤鬼」の稽古を見学させていただき、童心に戻り楽しませていただきました。

劇場へは9月にプラハ・フィルハーモニア管弦楽団のコンサートに行きました。改めて琵琶湖ホール之音響の素晴らしさと環境の良さに、名古屋から来た知人にも喜んでいただき誇らしく思いました。

劇場での安全もみんながマスクをしておしゃべりをしなければコロナも大丈夫という確認もされつつあるこの頃、3回目のワクチン接種も終わり、またお友達と一緒に琵琶湖ホールへ足を運びたいです。

前川 稔子

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

25 期 間木秀和

びわ湖ホールサポーターとして 2 年が経ちました。舞台芸術の普及活動がサポーターの主たるものなら、私自身この 1 年コロナ禍に翻弄され積極的に活動をした実感は有りません。一方びわ湖ホール劇場は公演の中止や延期があったとしても、コロナ禍のなか出来る最大限の対策をして舞台公演開催に繋げている熱意と組織力は素晴らしいと思います。

① PR 活動

PR 活動の主たる拠点は 4 ケ所、当初どこにもない態度でチラシを配っていたが、今頃は「さあ持って帰って PR しといて・・・」気軽に言えます、ただ年配者が多く効果は限定的の感があります。特にコロナには十分過ぎるほど気を付けなければいけない年齢「無理しないで」と声を掛けている。

② 講座受講・出来る限り各種講座には参加、印象的な講座を書くと・・・

- ・初心者向けトライアングル講座は有難い、青山登志和先生に未知の扉を少し開けて頂いた講座ではある・・・「オペラ」は演出や出演者によりストーリーが同じであっても違うように見えるのは私なりに新発見で興味深い。
- ・「伝統芸能」講師のお話しにより、人形浄瑠璃を見た記憶が蘇ったが当時は若く心惹かれるものはなかった。しかし年齢を重ねた今機会を見て伝統芸能なるものに足を運ぶ時かもしれない。
- ・ドイツ・ロマン主義美術と「北方」の風景美、仲間裕子先生この講座は舞台芸術ではなく私の理解不足からか絵画の歴史講座として聞きました。風景画家フリードリヒの「海辺の月の出」をはじめネットで探した結果彼の多くの絵画は背景の描き方に「無意識を刺激する」要素があるように思う。

③ その他活動

- ・Harmonia「2021 年 秋 47 号」の表紙に絵を提供させて頂いた。
- ・滋賀県立美術館にて「絵画展を鑑賞し学芸員解説を楽しむ」を趣旨とした企画をレクリエーショングループ提案実施した。

④ 総括

- ・講座の目的は演目への興味を持ちサポーターとしてのキャリアアップと普及活動に生かす事でしょうが、私にはもう少し時間が必要な気がします。
- ・来期もサポーターとしていろいろ模索しながら続けたいと思います。

劇場サポーターとなると同時期にコロナ感染が始まりました。私は県外におります。そのため、感染した場合の職場や家族に対する影響を思うと劇場に赴くこともままならない状況です。

送付の「STAGE」等を知人などに渡しても、「今県外に行くのは、、、」という反応です。でも、皆さん同様に「いい内容だね。早く行ける日がくるといいな～」と言っています。長引くコロナに、劇場サポーターをやめようかと思いましたが、私もその日を待ち遠しく思い、継続することとしました。

素晴らしい劇場に晴れ晴れとした気持ちで行ける日を楽しみにしております。

令和4年3月2日

第25期

山田 恵子



音楽、びわ湖ホールへの想い

第 25 期 吉野裕子

昨年度、春、ようやくコロナ禍の中からぬけだし、2021 びわ湖ホールプログラムを見て、びわ湖ホールにもさまざまな公演が戻ってきて、胸がワクワクしたのを思い出します。

夏から、ワクチン接種して、マスクしてではありましたが、いくつか公演や講習会を楽しむことができました。

バレエ講習会や、オペラカルメンのレクチャーなど、オペラつばめの見学会など、とても興味深く、楽しく参加させていただきました。

特に印象に残っているコンサートは、びわ湖ホール初演の石田組弦楽コンサートです。初めて聴きましたが、その斬新なプログラムと、何より技術の高い弦楽アンサンブルに感動し、すっかりはまってしまい、関東まで、また演奏会に足を運びました。今年もまた行きます。びわ湖ホールにもまた来てほしいです。

声楽アンサンブルのコンサートも、オペラを見るようになってから、メンバーの方もだいぶわかるようになり、とても親しみをもてるようになりました。

1 月のオペラ竹取物語もとても素晴らしかったです。現代風の音楽も取り入れ、壮大で楽しい素敵なオペラでした。オペラ作曲家としての沼尻氏も素晴らしいと思いました。

後半体調を崩して、12 月、1 月のオペラの講習会に参加できなかったのが残念です。また、定例会なども参加できず、申し訳なく思いました。

サポーターとしての活動は、講習会参加くらいで、あまり出来ませんでしたが、毎月、コーラスの方々やピアノの生徒、音楽好きの友人達に stage を配っています。だんだん公演が増えてきて、皆さんも楽しみにしてくださっています。

びわ湖ホールを愛するサポーターの熱い想いが、これからのびわ湖ホールの発展につながっていくのだろうと、私も音楽、びわ湖ホールへの想いを胸に、今年はもう少し活動できたらと思います。

昨年と同様に、オミクロンなど、まだまだコロナ禍は心配ですが、早く、心おきなく、演奏を、そしてびわ湖ホールを楽しめる日がきますように祈るばかりです。

2021年度活動報告

昨年度より一層コロナ禍が増した2021年度でした。その中でも様々な活動をされて、心のオアシスの役割を果たされたびわ湖ホールの皆様には心より感謝申し上げます。
びわ湖ホールから送られてくるチラシは私の趣味のグループメンバーとともに毎回楽しみに見ておりました。

2021年度

上半期

サポーター研修会（4月）、トライアングル講座バレエ（7月）、米原文化産業会館長栄座（7月）に参加しました。

トライアングル講座に長栄座、面白かったですね。

7月は小曾根真さんのライブにも行きました♪。

下半期は残念ながらコロナ感染を考えて、サポーター事業に参加できませんでした。

25期 米田 紀代子

1. 活動の成果

① 劇場サポーター定例会参加

テーマある定例会のスタイルを知り、何度か出席させていただきました。

② ハルモニア編集部活動

ハルモニア 47 号の発行、製本（10 月 17 日）、校正、レイアウト編集、レイアウト編集環境整備、会議などに参画しました。また次号（48 号）の企画会議に参画しました。

③ ハルモニア投稿

- ・自己紹介アンケート

- ・ハルモニア 47 号にトライアングル講座の報告を投稿しました。

④ イベントや講座への参加

- ・6 月 6 日「トライアングル講座 vol.3 第 1 回 オペラ編」

- ・7 月 11 日「トライアングル講座 vol.3 第 2 回 バレエ編」

- ・11 月 26 日「びわ湖ホール声楽アンサンブル 研修成果発表見学会」

- ・1 月 15 日オペラ講座『パルジファル』（初級編）（12 月 19 日は都合により欠席）

⑤ らくらく連絡網の活用

ハルモニア編集部、サポーターの方々の連絡、交流に使っております。

⑥ 広報物配布

会社や地域の友人知人 5 名に毎月定期的な配布を行っております。

2. 感想

定例会やハルモニア編集を通し、サポーターの方々やびわ湖ホール事務局ご担当者さまとの交流や新たな情報を得ることができました。またイベントや講座に参加して、舞台芸術の奥深さを楽しませていただくと共に、びわ湖ホール声楽アンサンブルの存在がより身近になりました。そして定期的を送付されてくるびわ湖ホール広報物の配布を通じて、びわ湖ホールやイベントに関心を持っている友人知人を知る機会となり、広報物が新たなコミュニケーションツールとなりました。

3. 反省点

コロナの影響などによりレクリエーションに参加することができず残念でした。

4. 今後の抱負

定例会や、ハルモニア編集会議、レクリエーションなど引き続き積極的に参加したいと思います。また地域のイベントにおいて、びわ湖ホール声楽アンサンブルさんの魅力を文化発信する場ができないか探りたいと思いました。

以上

2021 年度 びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

第 26 期 今久保智子

昨年 1 月の『魔笛』を見に行った時にいただいたサポーター募集のチラシがきっかけで 2021 年度のサポーターに応募しました。初めての経験で楽しく活動させていただいております。2022 年度も参加させていただきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

1) チラシ配布と広報活動

びわ湖ホールが見えるマンションに居住しています。チラシをマンションの掲示板のところに置いてもらおうと思いましたが、自治会の承諾がなければ置けないと聞き、結局自分でチラシを持ち歩き、出会った人に説明しながら渡しています。月初めには 30 部がなくなってしまう。毎月楽しみにしてくださる方もいて、「私は今度はこの公演に行くつもり・・・」などと話がはずみます。コロナ禍で不要不急の外出はしていないつもりですが、結構たくさんの人と出会っているのだと思いました。

2) 舞台芸術に関する研修の受講

サポーターになる前は、チケットを買ってゼミナールに参加していました。サポーターになってから無料でゼミに参加できるようになったので、大変お得感があります。ワーグナーに限らず、どんな研修会でも参加したいと思っていますので、早めにスケジュールを教えてください。本年度は『パルジファル』のゼミに参加しました。ワーグナーの思想や舞台にかける情熱を知ることができ、オペラを見るのがますます楽しみになりました。10 月のプッチーニのオペラ『つばめ』では、月曜日にピアノ伴奏でのゲネプロ、火曜日にオーケストラ伴奏でのゲネプロ、その週の金曜日に本番の公演を見ましたが、とても面白かった。びわ湖ホールの近くに住んでいることを本当にラッキーだと思いました。『カルメン』も連日行って出演者の違いを楽しみ、『カルメンの指揮法』を 3 日間連続、コロナで延期されていた『竹取物語』、ハイライトの『ローエングリン』、そして『泣いた赤おに』も含めてオペラ三昧の 1 年でした。その他、バレエや古典芸能にも行くようになりました。サポーターになってから、いろいろな舞台芸術の分野に興味広がったと思います。

3) 自主活動について

直近では、定例会で『パルジファル』の解説をサポーターの方がしてくださったのですが、わかりやすいレジュメで、大変参考になりました。私は音楽の歴史や理論を知らない単なるミーハーですが、他のサポーターの方はこんなによく勉強されておられるのだと感心するとともに、もっとお話を伺いたいと思っています。今後も定例会やサポーターズ・サロンなどにできるだけ参加したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2020年11月、びわ湖ホール声楽アンサンブルの特別公演「マタイ受難曲」を聴き、感動と共に宗教や音楽が人の精神を浄化し生きる勇気を与えることを確信しました。その余韻を引き摺っていた頃、偶々目にしたびわ湖ホール劇場サポーター募集の案内に心が動き、気軽に応募したのが間違いだったかもしれないと今、反省の只中にいます。音楽はもっぱら趣味のリスナー程度でしかない私でしたので、劇場サポーターとは何をする人なのか説明された時は、既に後悔先に立たずの状況で、やってみるしかないと言う参加時の心境でした。

サポーター活動には広報活動、びわ湖ホールを知る、舞台芸術への理解、相互交流など、思ってもいなかった程に専門的で多彩な学習や交流の機会が準備されていると感じました。

中でも人に広め進める広報活動には、最初からかなり苦労しました。退職後の身でもあり“隣は何をする人ぞ”のマンション住まいなので、身近にホールに誘う友人・知人も思いつかないため、広報物の配布先を探すことから始めました。その頃、ボランティアに参加していた市の図書館や社会福祉協議会、公民館などに置いて頂くようお願いしました。既に図書館や公民館には配布されていましたが、社協には置いていただくことになりました。ついでに、ボランティア仲間にも機会あるごとに配布し、その内、煩がられるようにもなりましたが、関心を持たればびわ湖ホールの公演に足を運ばれる方もできました。さらに、偶に通っていた近くのジャズ喫茶やライブハウスにも受け入れて頂きました。その結果、そこには私自身が毎月配布と喫茶に通うようになり、ジャズや公演以外にも世間話も弾みここに来る目的は何だったのか錯覚することもありました。毎月通うと言えば、行きつけの美容院にもついでに置いてもらうようになり、別の新規美容院の利用が難しくなりました。しかし、これだけでは、送られてくる広報物の枚数が裁けないので、思案に暮れていた時、びわ湖ホールは京都、大阪に繋がっているという地の利に気付き、京都や大阪の友人・知人に送付することにしました。このように私の1年目は、毎月の広報物や案内紙の配布が主活動になりました。

また従（？）の活動として、各種の基礎講座や特別講座、ゼミナール、定例会などへの参加を通して、私自身が広大で深遠な芸術の僅かな部分でしたが専門的に詳しく学び、びわ湖ホールを知り、舞台芸術への理解を深めることができました。特に音楽や歌劇・楽劇の詳細には全くの素人なので、その歴史、背景、思想・哲学、音楽的意味など未知の学問を学ぶことができ、目からウロコの様に知識を得、関心を深めることができました。

びわ湖ホールの新型コロナ禍にも混乱することなく、創意工夫した積極的姿勢には、大変心強く、励まされましたが、初めてのサポーター活動でもあり、何となく曖昧で消極的な1年間でもありました。2年目は、自身でも芸術の構造や機能を学び、知識を広げ深めることで、気軽に応募したことをより反省しつつ、サポーターとして僅かながらでも貢献していければと考えています。

びわ湖ホール劇場サポーター活動記録

26 期 小野悦子

コロナ禍とスケジュールの都合で参加できないことも多く、分科会にも入らないままで、サポーターの皆様とあまり交流出来なかったことを残念に思います。

県をまたいだ移動の自粛が呼びかけられている期間が長く、大阪や京都の人に積極的に声をかけにくかったため、チラシや機関紙を渡したり、公演に行った感想を伝えたりするくらいしか出来ませんでした。自分自身はたくさんの公演、セミナーに加え、ゲネプロや声楽アンサンブルの方の成果発表会など非公開の講演も鑑賞できて、大変勉強になりました。声楽アンサンブルの方には直接お話を聞く機会もつくっていただき、“舞台の上のスターたち”を身近に感じる事が出来ました。照明の小野様のお話も、サポーターの川端様の講座も、参加できた行事は全てとても有意義で楽しいものでした。ありがとうございました。

来年度も出来るだけたくさんの行事に参加し、少しでも貢献できるように心掛けたいと思います。

職員の方々にはいつも大変お世話になり、感謝しています。今後ともよろしくお願い致します。

一年間の活動報告

第 2 6 期

河野

和宏

これまでもオペラはトスカを観たことがある程度であったが、地元大津にオペラハウスがあることを思い出し、退職を機にもっと知りた

「参加した企画」

トライアングル講座、オペラセミナー

オペラ見学会（つばめ、竹取物語）

オペラ（カルメン）

セミナーや見学会を通して本番をより楽しめるようになるた嬉

じ。次第である。また、バレエや伝統芸能にも関心が出たのが嬉

「広報活動」

パンフレット 5 部を知人 4 人と支所に配布している

2021年4月から第26期のサポーターとして登録しましたが、あまり活動もせず1年が過ぎてしまいました。けれどいろいろな学習会等に参加できたり、びわ湖ホールで音楽を楽しむことができた1年間でもありました。その間の印象的な事柄の感想で活動報告とします。

●びわ湖ホール舞台見学

舞台に立ち、客席を眺めた時、大きな立方体の中にいる感じ。舞台の奥がこれほど広く前後左右に動く為の正方形の構造。客席から見ると平板な感じですが、これからは奥行きを感じながら音楽を聴くことになるかもしれない、という印象を受けました。

●竹取物語練習見学

初めてのオペラでした。練習見学ということで肩の力を抜いて観て、聴くことができました、が演じる方々は練習だからといって手は抜けなかったでしょう。無料で見学できたことに少しばかり心苦しさを感じましたが、とても豊かな時間でした。オペラの魅力をわずかながらも感じる事ができ、いずれ、びわ湖ホールでチケットを購入し見ることになるだろう、という予感を感じさせる経験でした。

●演奏：硬派弦楽アンサンブル石田組

最初舞台での姿を見た時「ヤーサン？」と感じ、これが「硬派？」と思うまもなく演奏が始まってバイオリンの音色に吸い込まれてしまいました。姿と音色のアンバランス、印象に残る演奏会でした。石田組長の技の冴、聞き惚れました。

●演奏：竹澤恭子・宮田 大・田村 響 ピアノ三重奏

チャイコフスキー「偉大なる芸術家の思い出」好きな曲です。3名の演奏者、長い楽曲を暗譜しているのには驚きですし、汗を拭きながら弾き続ける姿、3名の間のハーモニーにも神経を使うことでしょう。好きでなければ、そして体力がなければできない仕事。しかし最も充実した時間を過ごしているのは、3名の演奏者でしょう。そして初めてトリオで再び組むことができるかわからないとのこと。一期一会、それは聴く側も同じです。録画技術、録音技術がよくなっても、2度と繰り返し体験できないのが舞台芸術、そのようなことを考えながら今後のびわ湖ホールでの演奏会を楽しんでいきたいと思います。この1年間いろいろありがとうございました。

劇場サポーター活動報告

26期 寺尾宣子



びわ湖ホールインフォメーション mail 配信で目に留まった「劇場ホールサポーター募集」の言葉から琵琶湖を借景として佇む美しい劇場と私の新たな一年が始まりました。まずは音楽を通して私自身が楽しむ事、その中でサポーター活動として何ができるのか考えようと過ごしてきました。

広報活動

コロナ禍でもあり、不要不急の外出の自粛など叫ばれていますのでお誘いしにくく、足を運んでいただけそうな方に一筆を添え毎月郵送を続けています。(部数が少しなので) 素晴らしいびわ湖ホールと久しぶりの生の音楽に触れ癒されたと喜んでいただき、リピートしてくださる方もありました。

次年度もまだ郵送を主にして活動が続けるのが良いのではないかと考えていますが、早くマスクを外して過ごせる日々が訪れますようお願いしております。

私の成果

感染の拡大で芸術、音楽活動の自粛、制限された中でスタッフの皆様のご尽力のお陰で公演、いろいろな講座が開かれ多くの事を学ばせていただくことが出来ました。

その中で8月の「びわ湖ホールまるっとステージツアー」で大ホールの仕組みやオペラに使われる四面舞台のスケール大きさ、それを操る裏方(照明、音響、他…)の支えがあって初めて公演が出来上がる事を体験として学びました。

11月の「コレペティ研修成果発表見学会」ではびわ湖ホールアンサンブルのソリストとしての実力を聴かせていただき、後日日頃の切磋琢磨されているお話にも感動致しました。

また、コレペティトウアとしてオペラ歌手を支える方の存在も知りました。

反省および今後の抱負

サポーターとしてグループ活動には消極的でしたがもう少し皆様との交流の場に参加していきたいと考えています。また声を中心とした演目を鑑賞してきましたが、もう少し枠を広げようと思えるようになりました。

昨年のプロデュースオペラ「ローエングリン」鑑賞から1年、「バルジファル」が近づいてきました。サポーターとして積み重ねた経験が少しでも視野の広がりを実感して鑑賞出来れば嬉しい限りです。楽しみに待っております。

この一年いつも支えてくださったスタッフの方々、いろいろな情報を発信してくださった先輩の皆様に感謝とお礼申し上げます。

びわ湖ホール劇場サポーター 活動記録

第26期 富田裕行

<主な活動記録>

- 2021.4.11. 第26期劇場サポーターオリエンテーション及び交流会参加
- 2021.5.16. 基礎講座(第1回) 参加
- 2021.6.6. トライアングル講座(オペラ編) 受講
- 2021.6.27. 定例会(第2回) 参加
- 2021.7.11. トライアングル講座(バレエ編) 受講
- 2021.10.4. オペラ「つばめ」稽古見学会 参加
- 2021.11.26. びわ湖ホール声楽アンサンブル研修成果発表見学会 参加
- 2022.1.8. 演出家による「かもめ」講座 受講
- 2022.1.16. トライアングル講座(古典芸能編) 受講
- 2022.1.18. 「竹取物語」稽古見学会 参加

びわ湖ホール劇場サポーターとして初年度でしたので、各種用意していただいた講座や見学会に出来るだけ参加させていただきました。それぞれが大変興味深い内容で、楽しくかつ有意義でした。感謝申し上げます。

一方で、ホール公演の広報活動については、目立った活動は出来ず、低調だったことを申し訳なく思います。交流会にもあまり参加できませんでした。

今後は、引き続き各種講座の機会を活用させていただくと共に、交流会にも参加するようにしたいと思います。

劇場サポーター 1 年目を終えて

26 期 橋本博子

サポーターになる前にも数年間、びわ湖ホール友の会会員としてオペラ講座に参加したり、オペラやコンサート、演劇などに出かけたりしていましたが、サポーターになって訪れる機会が増え、びわ湖ホールがますます身近になりました。

コロナ感染拡大の影響で、コンサートのお手伝いなどはできず、毎月、送られてくる「Stage公演チケット情報」を家族や友人・知人に渡して、びわ湖ホールのすばらしさについて話すぐらいのことしかできませんでした。近所の公共施設などで、関西地方の公演のチラシを置いていたり、他に置いてくれそうなのも注意して見てきたつもりですが、直接、ホールから送られているのか、他のサポーターの方がすでに持参されているのか、新しい場所を開拓することはできていません。コロナで人と会う機会も減っている中、個人的な知り合いだけだと、送られてきた部数を無駄なく配れないこともよくありました。直接、集客にはつながらないかもしれませんが、メールや LINE など遠方の友人、知人に情報を送って喜ばれたこともありました。また、サロン企画グループに参加し、サポーター活動の理解が少し進んだかと思えます。

貢献できたことは少ないですが、勉強させていただいたことはたくさんあります。特に、特別講座やサポーターズサロンで専門的なお話や声楽アンサンブルのみなさんのお話が聞けたり、声楽アンサンブルの研修成果発表会を聴いたり、本番前の稽古を見学できたのは、大変貴重な経験でした。オペラ「竹取物語」は、サポーターとして KHP を見学し、サポート会員としてゲネプロを見学し、そして本番の鑑賞と、最終準備から発表までの3段階を続けて見学できてとても印象に残っています。事業部のプロデューサーのお話も、予算や補助金のこと、演目選定の基準など、オペラの舞台裏が分かって新鮮でした。さらに、ホールのスタッフの方々がサポーターを大切に考えてくださるのを感じる場面がとて多かったのも、びわ湖ホールを身近に感じるようになった大きい理由のひとつです。

びわ湖ホールに出かける時は、公演や講座そのものだけでなく、その道のりも大いに楽しみました。琵琶湖畔でくつろぐ人々、野鳥、対岸の山々など、ホールの周辺環境が最高で、大津駅やびわこ浜大津駅から遊歩道を歩いて行くのが大好きです。コロナ感染が収束したら、遠方の友人も誘って、琵琶湖周辺に滞在しホールで公演を楽しめたらと思っています。



びわ湖ホール劇場サポーター令和3年度活動報告

第26期 樋山友利

- 2月28日 劇場サポーター面接
- 3月3日 ローエングリン：ゲネプロ
- 3月7日 ローエングリン・ワークショップ&ローエングリン
- 3月28日 びわ湖ホール4大テノール
- 4月11日 サポーターオリエンテーション
- 5月2日 近江の春音楽祭(石橋栄実、砂川涼子、黒田博、声楽アンサンブル)
- 5月16日 第一回基礎講座(事業部PD 村島氏)
- 5月22日 サポーター交流会：この指とまれ「オペラ DVD 鑑賞会」
- 6月20日 第一回特別講座(中村豊氏)
- 7月11日 初心者向けトライアングル講座 バレエ編
- 7月18日 文産館内見学会&長栄座アーカイブ上映会&サポーターレクリエーション「梅花藻ツアー」
- 7月31日、8月1日 カルメン
- 8月8日 第二回特別講座 西洋美術史仲間裕子氏&サポーターズサロン
- 8月10日~12日 カルメン指揮法セミナー
- 9月18日 マーラーシリーズ：10番、1番
- 9月20日 石田組
- 10月4日 オペラ稽古見学会つばめ
- 10月10日 オペラつばめ
- 11月6日 日本合唱音楽の古典&青柳いづみこピアノリサイタル
- 11月16日~18日 林康子声楽セミナー
- 11月26日 声楽アンサンブルコレペティ研修&泣いた赤鬼稽古見学会
- 1月8日 鈴木優人指揮：日本センチュリー交響楽団
- 1月18日 竹取物語稽古見学会
- 2月5日 ワグナーゼミナール
- 2月17日 サポーター交流会：この指とまれ「オペラ DVD 鑑賞会」
- 2月20日 ワグナーゼミナール
- 3月1日 パルジファルゲネプロ見学会
- 3月3日 パルジファル

今年度よりびわ湖ホール劇場サポーターの仲間入りいたしました。これまでもよく劇場を訪れていましたが、劇場でサポーターさんや職員の顔見知りの方にお目にかかる今まで以上にびわ湖ホールを身近に感じるようになりました。

サポーター対象の特別講座の内容も素晴らしく、またサポーターの皆さんによる勉強会やレクリエーションも楽しく参加させていただきありがとうございました。

広報活動は合唱などの活動が再開したので stage を 50 部にいただき、大阪音楽大学音楽院会員、大響コーラス、伊丹市民オペラ、大阪バッハなど私がある時々所属する団体に配布しています。比較的びわ湖から遠い住まいの人が多いのですが、反応は好評で「これに行くわ!」とか、「あの公演に行ったわよ!」と報告してくださったり、これからもびわ湖ホールの存在やホールの活動をより多くの方に知っていただきたいと思います。また、私がよくびわ湖ホールに誘っていた知人が特別会員になってくれました。

最近では自分の音楽活動と企画運営グループの集まりの日が重なることも多く、なかなか参加できていませんが来期もどうぞよろしくお願いいたします。

☆サポーター活動一年目の振り返り

●活動内容

いくつかの所属グループ、近隣の知人への広報物の配布。
出来るだけ定例会、講習会への参加、出席を心がけました。

●成果

と言えるほどではないですが、毎月のstageを楽しみにしてくれる友人が3～4名出来、公演予定のプログラムについて話が弾んだり、好みの公演を一緒に見る機会が出来たりとささやかながら新たな出会いがありました。
コロナ収束後はもう少し活発な交流につながりそうな気がしています。

●感想、反省点

身近に立派な音楽ホールがありながらこれまでは年に2.3回程度あるかないかの来館でしたが、人生の終盤に音楽の世界にも少し関心を向けて知識や体験を深め新たな楽しみ発見を期待してのサポーター登録でした。

オーケストラやピアノ、バイオリンなどのコンサートは好きですが、オペラ観賞はこれまでにポピュラーなプログラムを数回程度のみ。

定例会や各講座に参加するたびにレベルの高い内容に「場違い？」と身が縮む様な気持ちになりました。

が、未知の分野への出会いに新鮮な気持ちを感じたり、知らないことを見聞きした事で関心が深まったり当初の思いは果たせつつあり嬉しく思っています。

最初の一年でしたので講座内容を知るためにトライアングル、オペラ公演前のレクチャー講座など参加に努めましたが、自分には難解で馴染めない内容のものもありました。あまり馴染みがなかった声楽アンサンブルの素晴らしさに触れたことは何よりの収穫で、ホールやアンサンブルのことが新聞等で目に止まると何か嬉しいような気持ちになるこの頃です。

自分が楽しく感じられ興味が深まる出会いを期待しながら活動が続けられればと願っているところです。

それがわずかでも周囲への発信につながれば何よりです。

26期サポーター 藤原幹子

第26期「びわ湖ホール劇場サポーター」報告書

今回初めて「びわこホール劇場サポーター」の参加です、活動記録といってもこの今年は、コロナの影響で思うようにびわ湖ホールには足を運ぶことが出来ませんでした。

特別講座などの参加もほとんど出来ず、サポーターの会合にもご連絡はいただきましても参加できていません。活動といっても送ってもらうチラシを配布するぐらいしか役立っていないように思い、大変申し訳なく思っています。

びわ湖ホールの演目も延期や中止が相次ぐ中、SNSの「facebook」や「Instagram」のフォロワーとしての参加ぐらいしかできなかったように思います。「YouTube」での公演の配信などは楽しめ、line 友だちへアドレスの送信をさせていただきました。

今年度こそコロナが少し落ち着いてくれることを願い簡単な報告とさせていただきます。

村上 真由美

●どのような活動をしたか

- ・ 研修会等への積極的参加
- ・ びわ湖ホールから送られてきたチラシ等の配布

●活動の成果

- ・ オペラ、バレエ、古典芸能等への関心・理解が深まった
- ・ 交流会や勉強会を通じてネットワークが広がり、地域や芸能について知ることができた

●感想

- ・ 芸能等についての高尚な話を聞いて、とてもついていけないかと思ったが、1年間さまざまな勉強をさせていただき、とても楽しかった
- ・ ホールやサポーターの先輩方々に厚くお礼を申しあげたい

●反省点

- ・ 平日の行事等には参加することができなかった
- ・ 専門知識や鑑賞経験が少なく、研修会等でも理解できないことが多かった
- ・ まだ知識が浅く、びわ湖ホールの宣伝は十分にできなかった

●今後の抱負

- ・ サポーターとして役に立てるにはまだまだ修行が足りないが、とりあえず続けたいと思う

2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要

◎劇場サポーター舞台芸術基礎講座（全サポーター対象）

【第1回 基礎講座】

テーマ：公立館におけるオペラ制作について

～コロナ禍の「神々の黄昏」から「ローエングリン」まで～

内 容：今につながるびわ湖ホールの開館からの歩みをたどります。

講 師：村島美也子（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 事業部 プロデューサー）

日 時：令和3年5月16日（日）10：00～11：30

場 所：びわ湖ホール 中ホール

【第2回 基礎講座】

テーマ：舞台音響のしくみ～オペラ編～

内 容：生演奏のクラシック公演における音響アプローチについて

講 師：小野隆浩（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 音響デザイナー）

日 時：令和4年2月26日（土）14：00～15：30

場 所：びわ湖ホール 大ホール・ホワイエ

◎劇場サポーター舞台芸術特別講座（全サポーター対象）

【第1回 特別講座】

テーマ：米原にある幻（!?）の芝居小屋、「長栄座」をご存知ですか？

～これまでの「長栄座」の10年と、これからの「長栄座伝承会 むすび」～

内 容：（1）芝居小屋「長栄座」の10年

（2）「長栄座伝承会 むすび」について

講 師：中村豊（演出家）、文化産業交流会館職員

日 時：令和3年6月20日（日）14：00～15：30

場 所：びわ湖ホールびわ湖ホール 中ホール

【第2回 特別講座】

テーマ：ドイツ・ロマン主義美術と「北方」の風景美

講 師：仲間裕子（立命館大学名誉教授）

日 時：2021年8月8日（日）14：00～15：30

場 所：びわ湖ホール 大ホール・ホワイエ

◎劇場サポーター オペラ稽古見学会、ゲネプロ見学会、研修成果発表見学会(全サポーター対象)

●「長栄座」10周年記念アーカイブ上映会 「平成の芝居小屋『長栄座』 名舞台を再び」

日 時：令和3年7月18日（日）10：00～12：10頃

場 所：滋賀県立文化産業交流会館 小劇場

●『つばめ』稽古見学会

日 時：令和3年10月4日（月）14：00～16：00頃

場 所：びわ湖ホール 中ホール（2階席からの見学）

●びわ湖ホール声楽アンサンブル 研修成果発表見学会

・コレペティトウア 岡本佐紀子

・出演 びわ湖ホール声楽アンサンブル

日 時：令和3年11月26日（金）14：00～16：20頃

場 所：びわ湖ホール 小ホール

●びわ湖ホール声楽アンサンブル ファンタジックオペラ『泣いた赤おに』ゲネプロ見学会

日 時：令和3年11月26日（金）18：00～19：40頃

場 所：びわ湖ホール 中ホール

●朗読劇「かもめ」関連企画 演出家による「かもめ」講座

日 時：令和4年1月8日（土）10：00～12：00頃

場 所：コラボしが21 3階大会議室

●『竹取物語』稽古（KHP）見学会

日 時：令和4年1月18日（火）14：00～16：00頃

場 所：びわ湖ホール 大ホール（3階席からの見学）

◎公演関連講座（直近4期のサポーター対象）

びわ湖ホールで開催する主催公演をより一層お楽しみいただくとともに、周囲の方々へ積極的に公演のPRをしていただけるよう公演関連講座研修を実施。

●オペラ講座『パルジファル』（初級編・全2回）令和3年12月19日（日）、令和4年1月15日（土）

●ワーグナー・ゼミナール（上級編・全3回）令和4年2月5日（土）、2月12日（土）、2月20日（日）

●オペラ・古典芸能・バレエ～初心者向け・トライアングル講座vol.3（全3回）

令和3年6月6日（日）、7月11日（日）、令和4年1月16日（日）

◎劇場サポーターメーリングリスト

びわ湖ホールからの事務連絡や自主交流会の案内、公演や講座の感想などの発信に用いています。

2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要

1. 定例会の開催

オリエンテーション	令和3年4月11日（日）	（自主交流会紹介／年間計画紹介 ほか）
第1回	令和3年4月18日（日）	新サポーターさん向け企画 「第25期・26期合同自己紹介」
第2回	令和3年6月27日（日）	「作曲家を知ろう！」～武満徹 没後25年～ 講師：西口直克氏（9期）
第3回	令和3年8月29日（日）	*延期
第4回	令和3年10月24日（日）	「よくわかる伝統芸能の楽しみ方」 講師：奥野ちよみ氏（21期生）
第5回	令和3年12月12日（日）	「私の音楽の聴き方」 みんなでおしゃべりしましょう！
第6回	令和4年2月26日（土）	ワーグナー作曲「パルジファル」講座 講師：川端正晴氏（24期生）

2. サポーター通信「Harmonia（ハルモニア）」の発行

- （1）4月 第46号（2021年春号）
- （2）10月 第47号（2021年秋号）

声楽アンサンブル新メンバー、26期サポーター自己紹介ほか

※サポーター通信「Harmonia（ハルモニア）」…

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」。1998年10月から1999年6月までに創刊。準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として創刊号～第47号を発行しています。

3. サポーターズ・サロンの実施

- （1）令和3年6月6日（日） 第1回 「事業部企画担当の古川さんとおしゃべりしよう！」
- （2）令和3年8月8日（日） 第2回 「公演鑑賞感想発表、サポーター活動について」
- （3）令和3年12月19日（日） 第3回 「びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーとおしゃべりしよう！」
- （4）令和4年3月27日（日） 第4回 「舞台技術部制作担当の橋本さんとおしゃべりしよう！」



2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱



1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを活かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、「びわ湖ホール劇場サポーター」（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで開催する公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、ご友人に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する講座や研修を受講し、知識を広め関心を高めていただきます。
- 勉強会や交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は概ね120人、登録期間は1年間とします。ただし、1年ごとに継続の意思確認を行いますので、希望される場合は更新することができます。継続の意思確認は2月～3月頃に行います。

4. 2021年度活動

- (1) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・ 口コミやチラシ配布などによるPR活動
- (2) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・ 基礎講座
 - ・ 特別講座
 - ・ 公演関連講座
- (3) 自主活動
 - ・ 交流会などの開催
 - ・ 劇場サポーター通信（Harmonia）の発行



2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳



【期 別】

1期	2名
3期	4名
4期	1名
5期	1名
6期	5名
7期	2名
8期	3名
9期	4名
10期	3名
11期	2名
12期	3名
13期	5名
14期	3名
15期	4名
16期	3名
17期	3名
18期	6名
19期	3名
20期	3名
21期	7名
22期	8名
23期	19名
24期	9名
25期	17名
26期	16名

【居住地】

● 滋 賀 県	
大 津 市	65名
草 津 市	6名
守 山 市	3名
東近江市	3名
彦 根 市	2名
米 原 市	1名
長 浜 市	2名
高 島 市	2名
湖 南 市	1名
近江八幡市	3名
蒲 生 郡	1名
● 京 都 府	22名
● 大 阪 府	13名
● 兵 庫 県	4名
● 奈 良 県	3名
● 香 川 県	1名
● 愛 知 県	2名
● 福 井 県	1名
● 東 京 都	1名

計 136 名

2021年度「びわ湖ホール劇場サポーター」活動の様子



12月19日 第3回 サポートーズ・サロンの様子



2月26日 第6回 定例会の様子



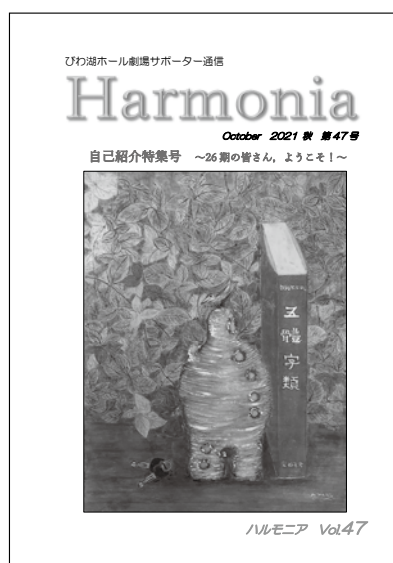
6月20日 第1回 特別講座の様子



8月8日 第2回 特別講座の様子



2月26日 第2回 基礎講座の様子



サポーター通信「ハルモニア」第47号

発行 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

発行年月 令和4年4月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <https://www.biwako-hall.or.jp/>